

入学者選抜におけるミスについて

- 文部科学省より、毎年度12月上旬頃に、大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の防止について、各大学に通知している。

【概要】

・毎年、大学入試において、出題・合否判定ミス、募集要項の作成段階でのミス、追加合格手続きにおけるミス等が発生していることを踏まえ、

- ① 出題・合否判定ミス等がないよう留意して実施すること
- ② ミスが生じた場合は、受験生等への情報提供を含め必要な対応や文部科学省大学入試室に対する第一報を行うとともに、速やかに報告書を提出すること
- ③ 近年の事例を参考に、作題や試験実施の参考とすること

- 入学者選抜におけるミスの件数は増加傾向。

平成19年度 142大学 232件 ⇒ 令和2年度 218大学 476件(76大学増、244件増)



各大学において、**ミスの防止に向けた対応**を行う必要

入学者選抜におけるミスの防止に係る新たなルールの概要

平成31年度大学入学者選抜実施要項(高等教育局長通知)において、以下の事項を新たに規定。

① 入試情報の取り扱い

- ・ **試験問題、解答は原則として公表(平成30年度 972大学/1032大学・短期大学 公表)**
- ・ **ただし、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、出題の意図又は複数若しくは標準的な解答例を公表**

② 体制の強化

- ・ 学長のリーダーシップの下、入試担当の理事、副学長等が入試業務全体を統括するなど、**入学者選抜全体のガバナンス体制を構築**

③ 点検の複数回化

- ・ 問題作成時の点検だけでなく、**試験実施中や試験実施後においても点検**
- ・ チェック体制自体も不断に点検

④ 外部から指摘があった場合の対応

- ・ **外部から入学者選抜におけるミスに係る指摘等があった場合には、速やかに作題者以外の者も含めて組織的な対応で検証**

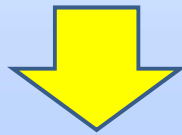
入学者選抜におけるミスについて 事例①

<事例>試験当日の運営に関するミス

試験終了直前に受験生から問題に対する質疑があり、試験実施本部で検討の結果、補足説明を行うとともに試験時間を全員10分延長することとした。
しかし、一部の試験室では伝達が間に合わず時間延長が行われなかった。

本事例は、試験実施本部から試験室への伝達に想定以上の時間がかかった
緊急時対応についての事前の想定が不十分さが原因。

「試験実施本部からの伝達にかかる所要時間」、
「緊急時に必要な体制の検討」
などといった点についても、十分な想定が必要。



教員、事務職員等関係者が一体となり、**緊急時の対応における迅速性及び公平性の確保を含めた**円滑な試験実施・伝達体制の確立に努めること。

入学者選抜におけるミスについて 事例②

<事例>問題作成に関するミス

1. 「 h^2 」とすべきところ「h」と誤記してしまったなど数式・記号の誤り。
2. 「池田勇人」を「池田隼人」と誤記してしまったなど漢字の誤り。
3. 漢字の読みを問う問題で「雑言」について「ぞうげん」という読みを誤りとしていたが、辞書等によればその読み方も誤りとは言えなかった。
4. 誤りとしていた選択肢が、最新の研究では誤りとは言えなかった。
5. 100点満点としていたが、素点を合計すると合計が95点しかなかった。
6. 問題の校正・点検の最終段階で急きょ問題を差し替えたが、差替え後の点検が不十分であったため出題ミスが発生。 など

本事例のような誤記、正答の不存在／複数存在はミス報告の中で**最多**。

ほとんどが**点検の不十分さに起因**。
試験実施後・合否発表後のミス発覚も多い。



試験問題の点検については、**試験実施直前に点検するだけでなく、試験開始後においても速やかに、作題者以外の者も含めて、二重三重に点検を行う**こと等により、ミスの防止及び早期発見に努めること。なお、問題の文面だけでなく、**問題の内容についても解答が導き出せるか確認すること**。特に**外部からの指摘等によりミスの可能性が判明した場合には、組織的な体制で検証を行うこと**。

入学者選抜におけるミスについて 事例③

＜事例＞試験当日及び事後の運営に関するミス

1. 別の日程の問題用紙を誤って配付した。
2. 回収した解答用紙の枚数が不足していた。
3. 面接担当教員が面接試験開始時刻を勘違いしており、試験開始時刻に遅刻した。
4. ホームページで合格発表する際、設定を誤り、正規の時間前に公表した。
5. 合否通知を誤った住所に発送した。
6. 採点の際、小問の合計得点の計算を誤った。
7. 誤って別日程の配点表・採点表で採点を行った。

本事例は、責任者の指示不足や事務の確認不足などが背景にあるが

実施体制の不十分さが原因。

教員と事務職員が連携し相互に補完するような体制をとることが重要。



- ・**入学者選抜業務のプロセス全体を把握**した上で、ミスを防止するためのガイドラインを作成すること等により、**業務全体のチェック体制を確立**すること。また、入学者選抜に関わる者の責務を明確にし、**責任をもって業務を行うよう注意を喚起**すること。
- ・各担当の**業務は必ず複数人で行い、相互に確認する体制を確立**すること。

入学者選抜におけるミスについて 事例④

＜事例＞入試管理システムに関するミス

1. 入試管理システム改修時のプログラム誤りにより不正確な得点集計があった。
 - ・総得点が300点となるべきところ、二重に加算され600点で計算されていた。
 - ・特定の科目の得点が加算されていなかった。
 - ・特定の大問だけ得点が2倍で計算されていた。
2. 100点満点を150点満点に換算すべきところ、入試管理システムのプログラム改修に反映されていなかった。

本事例は、

- ・システム改修後の検証作業として仮定データ等を用いたテスト計算を行わなかった
- ・テスト計算は行ったが、改修した部分のみの確認にとどまり、得点集計全般に対する検証は行わなかった
- ・合否判定資料の出力帳票について、配点や合計点等の確認を行わなかった
- ・各部局においても判定資料の配点や得点の誤りがないことを前提として合否判定を行った
- ・システム担当部署、入試担当部署、各部局で役割分担が明確化しておらず、誰かが作業・確認するものとの曖昧な側面があった
- ・募集要項の配点等の変更点をシステム改修請負業者に明確に伝えていなかった(仕様書に募集要項を参照するよう記載したのみ)
- ・募集要項の配点等の変更点がマニュアルやチェックリストに反映されておらず、誤りのあるマニュアルやチェックリストに基づいてシステム改修やチェックが行われたため、ミスを発見できなかった。

など、**点検・確認の不十分さが原因**



- ・**改修したシステムの納品時の検証や得点集計時の検証**を確実に行うこと。
- ・配点等のチェックは、マニュアルやチェックリストだけでなく(又は別途資料を作成するのではなく)、**募集要項本体との照合**を行うこと。**システム改修請負業者にも変更点を明確に伝える**こと。
- ・**関係部署における役割分担と責任を明確化・明文化**し、発注漏れやチェック漏れ等がないようにすること。
- ・**計算結果が理論値を超えたら「エラー」表示が出る機能**や**設定の誤りを自律的に検出できる機能**を加えるなどのプログラムのアップデートも考えられること。